

「竹子小学校の竹子棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

霧島市立竹子小学校

2 学年・人数

1年生から6年生まで25人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年9月の1か月間 竹子小学校・体育館・校庭

(2) 発表の日時・場所

令和3年9月26日（日） 本校 秋季大運動会

※ 例年出演している『竹子ウォーク』、『溝辺町文化祭』は、コロナ禍のため開催されなかった。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

竹子棒踊り（たかぜぼうおどり）

(2) 由来

竹子棒踊りの起源は、島津義弘公の朝鮮出兵前後にあるといわれ、豊作祈願の舞として古くから竹子校区内の各集落で踊られてきたものである。保存会の指導の下、竹子小の児童も踊りを継承し、運動会では30年間、踊り継いでおり、地域の伝統をつなぐ踊りとなっている。

(3) 構成等

かすりの着物に五色の飾りを付け、頭には鉢巻き、手には4尺の棒を持ち、4人一組で踊る。扇子を手につけて声とともに入場し、「ソッソッソッ」と勇ましい掛け声を出しながら、跳び跳ねたり、背中を反らしたり、棒を左右、前後の人と叩き合わせたりするなど、複雑な動作で踊りが展開する。

5 保存会や地域との連携の具体

竹子地区の棒踊りは、かつて青年団を中心に踊っていたが、現在は保存会が継承し、地域行事等で披露されている。「小学生にも踊りを引き継いでもらおう」ということで昭和61年頃に当時の保存会が小学生へ指導を始め、昭和63年には運動会で棒踊りを披露し、それ以来、平成29年度まで続いており、その歴史は30年程となっており、学校・地域の特色ある伝統の踊りとなっている。平成26年には、10年程途絶えていた地域での棒踊りが復活し、その方々が小学生の指導にも携わっている。平成28年には、入場から踊りまで大人と全く同じ複雑な踊りを取り入れ、運動会では大きな拍手をいただいた。4人一組で踊る関係上、小学生の人数が不足する分には保存会のメンバーが入り、大人と小学生が一体となった踊りが展開され、伝統継承を踊りで披露した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小学生の竹子棒踊りの動きは、平成27年度までは、地域の大人の踊りの動きを簡略化したもので踊っていたが、平成26年度に地域の棒踊り保存会が約10年振りに復活した

のを契機に、平成28年度の運動会から大人と全く同じ動きで踊るようにした。9月に入るとすぐに保存会の指導を仰ぎながら練習を開始し、腰の曲げ方、膝の折り方など細かな点にも気を配って踊るように留意した。扇子を持ち掛け声とともに入場する動きや、四人一組で左右、前後の人との棒の打ち合い、棒で脚を払う動作、四人が棒の先を合わせて地面に打ち下ろす動作など、めまぐるしく複雑な動きで、前・後半で展開される踊りは、後半に入るとより掛け声も大きくなり白熱した踊りとなる。地域民にとっても、大人と同じ伝統の踊りが継承される様子を見て、大変嬉しそうであり意義あるものとなっている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

本年度も、コロナ禍の中での練習となったが、様々なことに配慮しながら、短時間で集中した取組を心がけた。また、児童数の減少から、高学年だけだった踊りも、一昨年度は3年生から、そして、本年度は1年生も入り、全校児童での踊りに挑戦した。練習方法としては、まず地域保存会の方に全体指導(計2回)をしていただき、その後は、高学年の子供たちが未経験の下学年の後輩たちに教えていくという方法で進めている。「難しかったけど、練習すればするだけ上手に踊れるようになってきた。新調した着物で踊れて嬉しかった。」等、子供同士で学び合う楽しさや達成感を十分に感じとっている。運動会の演舞後は、「緊張したけどやり遂げられた。たくさんの大きな拍手をもらって嬉しかった。」等の感想があった。6年生の保護者からは「低学年に配慮しながら立派に踊っていた。最後の年もこんな素晴らしい踊りを見ることができて嬉しかった。」等の声が聞こえてきた。教職員からは「竹子の伝統の踊りが晴れ舞台で演じられるのはよいこと。難しい動きがあるが練習すれば必ずできる。これからも特色として大事につないでいきたい。」との感想が出ている。保存会の方からは「このように大人と全く同じ動きを子どもたちが一斉に踊る姿には感動を覚える。伝統をつないでもらい、ありがたく嬉しく思う。昨年度より上達が速くレベルが上がってきている。」との感想をいただいている。地域の歴史と伝統をつなぐ竹子棒踊り。これからも地域、学校の誇りとして継承していきたい。